

香川県立保健医療大学リポジトリ

行政主導で結成された地縁の地域組織で活動を継続している役員の意識

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大池, 明枝 メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/140

行政主導で結成された地縁の地域組織で活動を 継続している役員の意識

大池 明枝

香川県立保健医療大学保健医療学部保健医療学科

Attitude of Committee Officers Who Continue to Work with Community- based Local Organizations Formed by Governmental Initiatives

Akie Ooike

Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences

要旨

地縁の地域組織活動を支援するための示唆を得ることを目的に、インタビューにより行政主導で結成されたC委員会役員の意識を分析した。結果、役員になったのは【引き受ける】、【豊かな自己を期待】という意識であった。また、住民の保健行動や保健事業、保健師を【見守る】という意識や、保健事業等において【その場に添う】という意識で活動していた。委員会活動における【自己・他者を大切にする】体験を通して役員の活動を継続し、【自己成長への手応え】を感じていた。保健師は、＜地区住民への期待と憂い＞＜地区住民の行動を支持＞している役員と、本音で語り合うことで、より住民に添った保健活動の創造が期待できることが示唆された。

Key Words: 地縁の地域組織 (community-based local organizations), 役員 (committee officers), 意識 (attitude)

*連絡先: 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 大池 明枝

*Correspondence to: Akie Ooike, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences, 281-1 Murecho-hara, Takamatsu, Kagawa 761-0123 Japan

序 文

地域組織活動の重要性は、地域保健における住民参加を促進する方法として、1978年アルマ・アタ宣言で提案されたプライマリ・ヘルス・ケアや、1986年のオタワ憲章で提唱されたヘルスプロモーションのなかでも提唱されている¹⁾。住民の組織的な活動の多くは、そこで生活している全世帯の加入を基本とした自治会や婦人会等地縁による組織で活動が行われている。宮坂は、住民参加は住民の代表者による間接的参加になるため、自治会や町内会のような地域の全世帯や家族を対象とする包括的組織を基盤とする住民組織が重要である²⁾としている。しかし、これらの地縁による組織では一般的に役員や委員が順番でまわってくるといった自主性や主体性において限界がある。

行政職員の一員として地域保健活動に携わっている保健師には、住民の主体的、組織的な問題解決力が発揮されるのを支援することが求められている^{3) - 6)}。

地域保健活動における地縁による包括的な地域組織として、自治会を単位として保健委員会や保健補導委員会等の名のもとに行政主導で結成されたものがある。コミュニティの連帯意識が希薄化している現在、地縁による包括的な住民組織が活性化することの意義は大きい。

そこで、今後地縁による包括的な地域組織活動を支援する示唆を得るために、行政主導で結成され長期にわたり活動が継続されているA市B地区C委員会の役員の意識を知ることがを目的に研究に取り組んだ。

方 法

1. 対象

地域の保健活動を目的に昭和32年に結成された

A市B地区C委員会の役員9名のうち研究に同意を得られた7名(表1)である。年齢は50～60歳代で、全員女性である。役員の経験年数は、3年～24年であった。

2. 方法

インタビューガイドに基づく半構造的な個別面接調査。

内容は、1) 役員になった動機、2) 役員を継続している理由、3) 継続して活動することによる自身の変化とした。

面接場所は、B地区公民館会議室で、面接時間は、一人当たり約1時間とした。

3. 分析方法

木下康仁氏⁷⁾が開発した修正版グランデッドセオリーを参考に逐語録から概念を抽出し、概念の類似性によりカテゴリー化した。

4. 倫理的配慮

まずB地区担当保健師からC委員会会長に了解を得た後に、研究者が各役員に電話と文書にて依頼し、文書にて承諾を得た。録音についても承諾を得た。

5. C委員会の主な活動

A市の郊外に位置するB地区は人口約1万6千人、世帯数約7千であり、C委員会は婦人会や自治会を母体としない単独の会で、B地区全世帯の55%が加入し、自治会毎に保健委員が家順で選ばれている。年会費は1世帯あたり200円である。保健委員は104名、役員は9名である。役員は主に責任を持つ地区と保健事業を分担している。委員会の主な活動は次のとおりである。

- 1) B地区の母子保健活動、成人保健活動、食生活改善推進活動の計画運営を支援
- 2) 2ヶ月毎の役員・委員会を開催
- 3) 2ヶ月毎の委員と住民の学習会を開催
- 4) 公民館における女性教室の企画と運営
- 5) B地区献血推進協議会と赤十字奉仕団の活動

表1 対象の概要

番号	性	年齢	役員年数	C地区居住年数	保健委員の経験
1	女	50代	4年目	9年	有 16～17年前
2	女	60代	24年目	44年	有 何回か
3	女	60代	8年目	21年	有 20年前
4	女	50代	11年目	30年	有 1～2回
5	女	60代	9年目	60年	有 9年前
6	女	60代	12年目	40年	無
7	女	50代	3年目	25年	有 2～3回

結 果

C委員会役員のインタビューから17の概念が抽出された。各概念の操作的定義を表2に示す。これらの概念から6つのカテゴリーが生成された。そして、コアカテゴリーとして『自己を知り、今ここでの役割を引き受ける』が生成され、コアカテゴリーの操作的定義を、自分の心にあるものを見つめ、住民に添いながら今ここに必要な役割を認識し責任をもって行動することとした。なお、抽出された概念、生成されたカテゴリー、コアカテゴリーの関係を図1に示した。

以下カテゴリー毎の結果を述べる。カテゴリーを【】で、概念を<>で、データを「」で示す。
1. 【引き受ける】

役員は、地区の自分以外の人の子育て中である、仕事をしている、また家にいても高齢である、会長が役員になってくれる人がいなく困っている等周囲の状況を見て、自分が役員を引き受けられないと<状況判断による引き受け>をして

いる。また、引き受けたからには<自分の行動に責任を持つ>など責任感をもっていた。

2. 【豊かな自己を期待】

役員らは、【引き受ける】と同時に「ボランティアは年をとってもできることであり、社会とかかわることにより自然な形で刺激が入る」、「子育てが終わり、何かどこかで自分を磨きたいと思っていた」など<豊かな自己を期待>していた。

3. 【見守る】

「今の若い人は結構上手に子育てをしている」とか、「このごろの人は結構自分の身体のことについて気をつけている」など<地区住民の行動を支持>している。また、今実施している健康相談や健康教育等の<保健事業の支持>をし、保健師に対しては、一定の距離をおいて<保健師を見守る>といった意識を持っていた。また、保健事業への若い人の参加が少ないこと、徘徊する高齢者への資源の乏しさ、自立できてない若い母親の存在等<地区住民への期待と憂い>を持っていた。

4. 【自己、他者を大切にする】

表2 概念の操作的定義

概 念	操 作 的 定 義
①状況判断による引き受け	自分の周囲の人たちの勤務や子育て状況から、自分が役員を引き受けられない状況であることを判断し引き受けること
②自分の行動に責任を持つ	担当地区民や担当する業務に責任をもって携わること
③豊かな自己を期待	社会とのつながりを持ち、いろんな刺激を受け自分を磨き続けたいという気持で役員を承諾すること
④地区民の行動を支持	地区の人たちの健康に関する行動の良いところを認めること
⑤保健事業の支持	地区民に対して実施されている保健事業を理解し認めていること
⑥保健師を見守る	保健師の活動のある距離を保ちながら、必要であれば提案していく関係で活動していくこと
⑦地区民への期待と憂い	地区民の健康に関する意識や行動で、こうあって欲しいということを期待するとともに、できていないことを気にかけていること
⑧気持の“楽”を体験	窮屈さやこころ苦しさがなく、安らかな気持を体験できること
⑨役員個々の生活を尊重	自分や家庭を先ず大切にしながら活動するというのが、メンバー間で納得されていること
⑩地域活動への接近感	活動を通して、地域ですでに実施されている活動やグループが身近になり、内容について理解できるという思いをもつこと
⑪感性のゆさぶり体験	今まで知らなかったことがわかる体験をし、自分の感性が揺さぶられること
⑫人との関係性の向上	他者とのコミュニケーションや関係の持ち方が、これまでよりいい方向にしていること
⑬自己効力感の獲得	活動をとおして、やったらできるんだという気持ちになること
⑭みたされ体験	満足、充実など自分がみたまされているという感情体験をすること
⑮柔軟な見方の獲得	これまでの自分の価値尺度で物事をみるのではなく、いろいろな視点からみることができるようになること
⑯集中力の獲得	決められた時間で必要なことを集中して実施する力ができること
⑰その場に添う	その場の状況に必要な役割や行動を認識し、自然な感じで行動すること

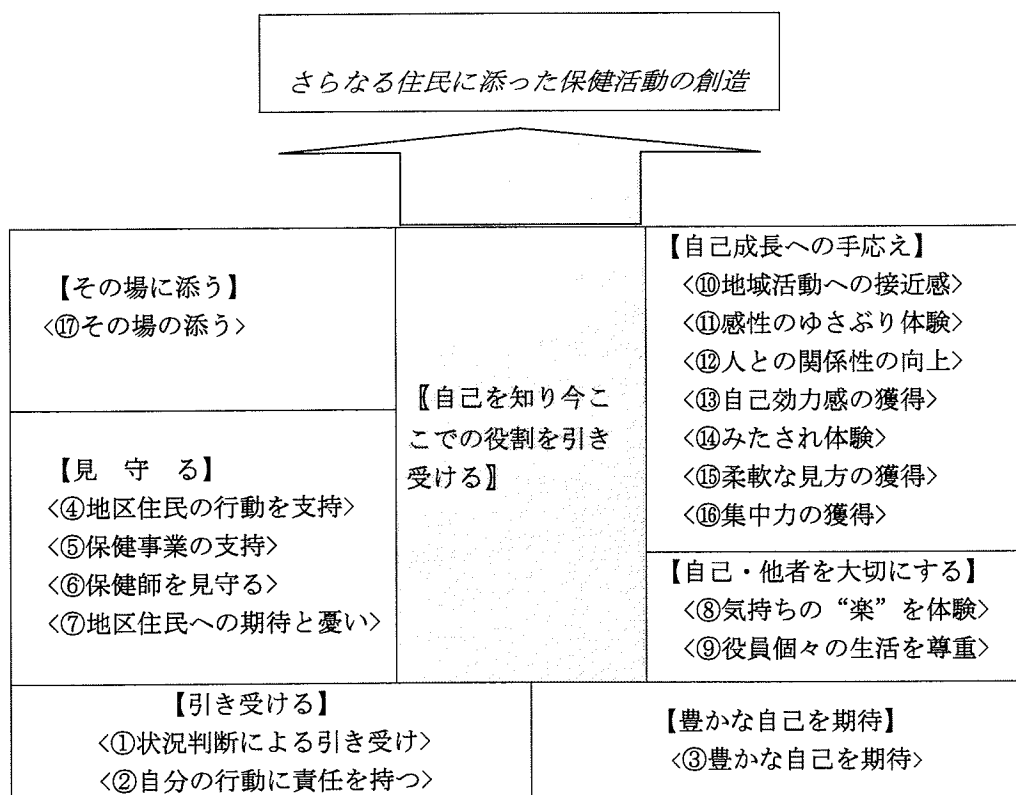


図1. C委員会役員の保健活動における意識

定例会や研修会に集まり用事を済ませた後の雑談で気が楽になったり、何かを決める時は皆に諮って相談する雰囲気や、皆が温厚で受け入れてくれる雰囲気があり、役員同士の心が通じるなど<気持ちの“楽”を体験>している。また、家庭を一番大事にすることを基本に、自分の自由な時間内でやれる範囲とするなど<役員個々の生活を尊重>していた。

5. 【自己成長への手ごたえ】

C委員会で活動することで、地域ですでに実施されている活動やグループのことが理解できるなど<地域活動への接近感>を持ち、<感性の揺さぶり体験>や、<人との関係性の向上>、<自己効力感の獲得>をしていた。また、地域の人喜んでくれることにより、役に立っているという満足感や人の世話ができる幸福感などの<みたされ体験>や、<柔軟な見方の獲得>、<集中力の獲得>をしていた。

6. 【その場に添う】

役員たちが担当する検診や研修会等では進行がスムーズに行くように、「私たちの立場はやはりそうしたらいいのかなと、それ自体勉強なんです。出しゃばらずに、突き放さずに、自然に」と自分たちの役割の一つとして【その場に添う】こ

とを意識していた。

考 察

1. 役員を引き受ける

C委員会の役員は、最初会長等が地区内で適切と思った人に個々に声をかけ依頼し内諾を得ている。役員になるきっかけは、依頼されるという外的誘因であるが、同時に豊かな自己を期待するといった内的誘因により引き受けていることがわかる。つまり、会長の声かけにより、自分の内にある自己を豊かにしたいという思いを再認識し、役員になることがその思いを達成できる機会になると自己の主体性で判断している。

会長等が考えている適切な人とは、保健委員の経験があり仕事を持ってなく、責任ある行動をしてくれる人である。この選定基準が、周囲の状況をみて役員を【引き受ける】という力を持っている人を選ぶことになっていると思う。加入率55%の地縁の包括的組織において、この周囲の状況を判断し、引き受けるからには責任ある行動をする【引き受ける】という意識を持つ人の存在意義は大きいと思われる。

2. その場に添い見守る

C委員会の活動の一つとして、B地区の母子、成人保健活動等の計画運営の支援がある。その具体的内容として、年度ごとに企画されている色々な事業などの進行がスムーズにいくように、参加した住民の行動やその場の雰囲気をキャッチし、自分たちにできることをするというに置いていることがわかった。その場に必要なのに気づき自ら行動するという意味においては、主体的な活動をしていると考えられ、高く評価したい。

しかし、＜保健事業を支持する＞や、＜保健師を見守る＞といった概念からは、B地区に生活する住民の一人として、本音で保健師と意見をぶつけ合う姿は見えてこない。1986年にWHOによりヘルスプロモーションの理念が提唱されて以来、住民に期待されることは、行政や専門職と対等な立場で、生活者としての思いや考えを表現することを通して目標を共有し、共に活動を計画する。そして、住民自ら役割を引き受け実践し、共に評価することである^{8) - 10)}。保健師は、自己成長への手ごたえを得ながら住民の健康な生活を守るために、そこに必要な役割を引き受けている人たちと、＜地区住民への期待と憂い＞や＜地区民の行動を支持＞について本音で時間をかけ語り合うことで、坪川氏や大池がいう組織としての成長^{3) 11)}と、より住民に添った保健活動の創造が期待できると考える。そして、池上氏がいうように、最初行政がその必要性を提起し出発した行政主導で結成された組織であろうとも、住民にしっかり定着した組織¹²⁾になっていくと考える。

3. 継続して活動することによる自己成長

役員が継続してその役割を引き受けられる要因に、C委員会において役員同士で雑談できる、皆で相談する、自分が受け入れられる、皆と心が通じる等気持ちの楽の体験と、自分の生活を大切にすることが優先される体験がある。これらの体験は、野村氏、森田氏、大池がいう役員個々がエンパワーされる条件^{13) - 15)}として重要と考える。そして、継続することにより自己成長への手応えを感じている。また、自己成長への手応えを感じているから継続できるとも考えられる。

結 論

行政主導で結成された地域組織であるC委員会の役員は、その時の周囲の状況を判断し、責任感

のもと役員を【引き受ける】ことと同時に、【豊かな自己を期待】していた。また、地区住民の保健行動や保健事業、保健師を【見守る】、保健事業等の場で【その場に添う】という意識で活動していた。委員会活動では【自己・他者を大切にする】体験を通して活動を継続し【自己成長への手応え】を感じていた。そして、保健師は、＜地区住民への期待と憂い＞や＜地区住民の行動を支持＞している役員と、本音で語り合うことで、組織としての成長と、より住民に添った保健活動の創造が期待できることが示唆された。

文 献

- 1) 斉藤進 (2001) 地域組織活動をどう強化・活性化させるか 調査結果から行政支援のあり方を考える。生活教育 8: 27.
- 2) 宮坂忠夫 (1979) Health Educationからみた“国民健康づくり”の課題。公衆衛生 43: 531.
- 3) 坪川トモ子 鳩野洋子 (2000) 地域保健における住民組織の主体性に関するアセスメント指標の検討。保健師雑誌 56: 316 - 322.
- 4) 吉村信恵 (2001) 保健師が住民の自主性・主体性を重んじる姿勢について—計量的評価の試みと教育などの因子との関係—。市町村等における健康づくり事業の評価指標の開発と住民参加型の評価体制のあり方に関する研究報告書, p19.
- 5) 守田孝恵 (2001) グループ活動支援評価—評価指標作成によるグループ発展の評価の試み—。市町村等における健康づくり事業の評価指標の開発と住民参加型の評価体制のあり方に関する研究報告書, p20 - 21.
- 6) 田口敦子, 岡本玲子 (2003) ヘルスプロモーションを推進する住民組織への保健師の支援過程。日本地域看護学会第6回学術集会講演集 (神奈川), p152.
- 7) 木下康仁 (2003) “グランデッド・セオリー・アプローチの実践” 1版, 弘文社, 東京, p89 - 229.
- 8) 星旦二 (2002) “あなたのまちの健康づくり”, 1版, 新企画出版社, 東京, p32 - 33.
- 9) 島内憲夫 助友裕子 (2000) “ヘルスプロモーションのすすめ”, 1版, 垣内出版株式会社, 東京, p70.
- 10) 清水純一 (1997) ヘルスプロモーションにおけるエンパワメントの概念と実践。看護研究, 6: p9.
- 11) 大池明枝 越田美穂子 荒谷多香子 (2005) 自主的参加による地域組織活動における住民のエンパワメントを支えるもの—その1 エンパワメントの実態

- 一. 第35回日本看護学会論文集 地域看護113-115.
- 12) 池上洋通 (1981) “燃えさかれ命の火” 1 版, 自治体研究社, 東京, p215.
- 13) 野村武夫 (2002) グループワーク援助の原則. 生活教育 6: 66-67.
- 14) 森田ゆり (2003) “エンパワメントと人権”, 1 版, 開放出版社, 東京, p17-18.
- 15) 大池明枝 越田美穂子 荒谷多香子 (2006) 自主的参加による地域組織活動における住民のエンパワメントを支える要因. 日本看護学会誌 2: 62-70.
-

Abstract

To identify ways to improve support for local community-based organizations, we interviewed and analyzed the attitudes of committee officers from Public Health Committee C, which was formed by a government initiative. The reasons the subjects gave for accepting their positions were: “Someone asked me to do it” and “I thought it would lead to self-development”. They saw their work on the committee to be “watching over” the health of local citizens, public health services and public health nurses and providing “on-site support” for public health services, etc. The experience of “caring for themselves and others” gained in the course of the committee’s activities motivated them to continue these activities and gave them a sense of “personal growth”. Our findings suggested that frank consultation between public health nurses and committee officers, who have “positive expectations of local citizens as well as some concerns and frustrations” and who “support local health activities”, can help public health nurses to create health programs more suited to the needs of local residents.

受付日 2006年10月31日
受理日 2007年1月31日